

うしくでびっくり!

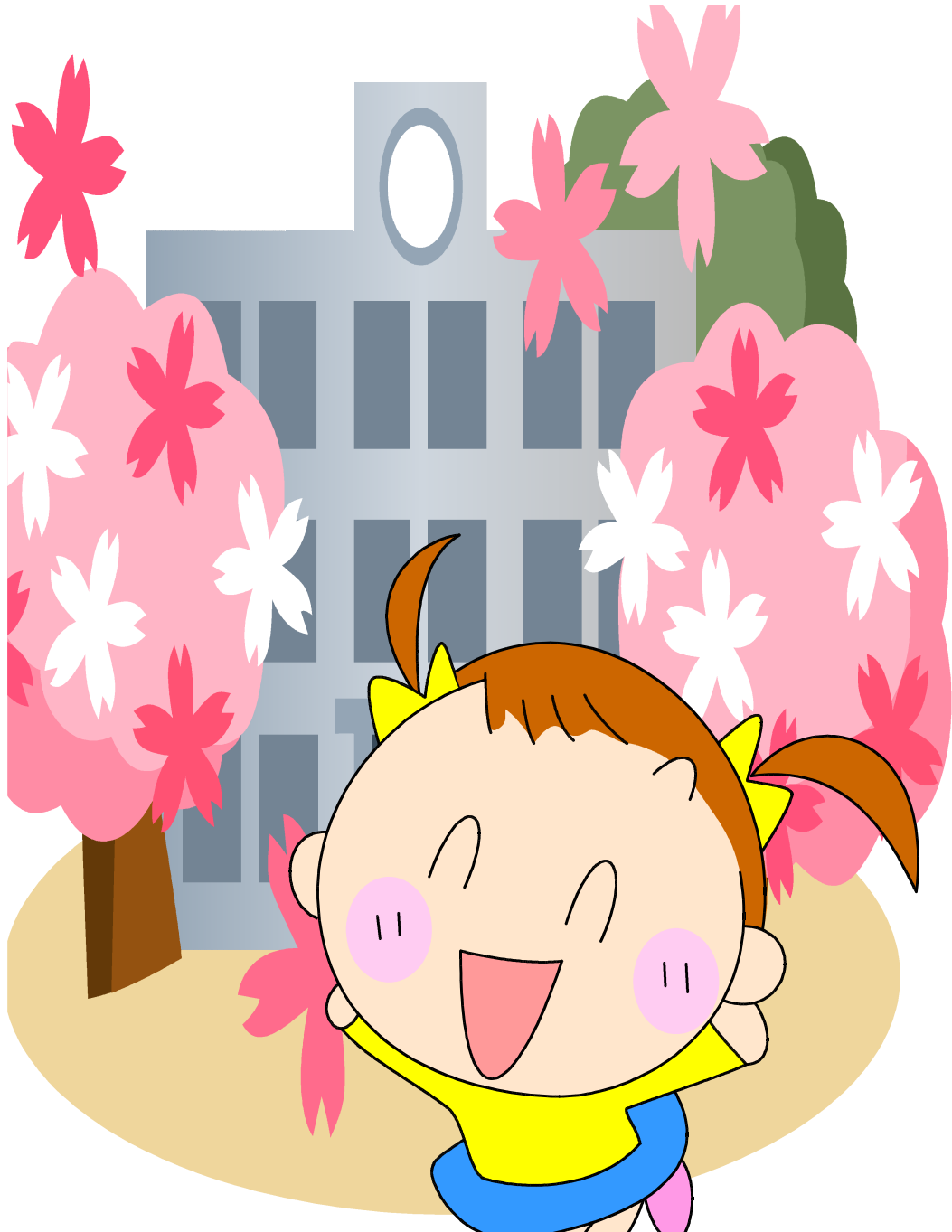
NO 40

やういんちのもね



小坂村絵図（天保8年8月）

なっちゃんは、おくの
の しょうがくせい。



あるひのこと。なっちゃん
が、**おさか**のこくど
う 4 0 8 ごうせんの ほ
どうをあるいと、
りっぱなもんがあった。

「ここは、だれのおうち
なの？」

となっちゃんが、きくと
「**さいとうさん**のおうち
だよ。むかしから つづ
いている れきしあるい
えなんだよ」

と おかあさん。

「へー、そうなんだ。どんな
れきしがあるの？」

おかあさん、しばらく、か
んがえて

「わからないわ」

「ん～、きになっちゃうわ」

ど
う
し
よ
う

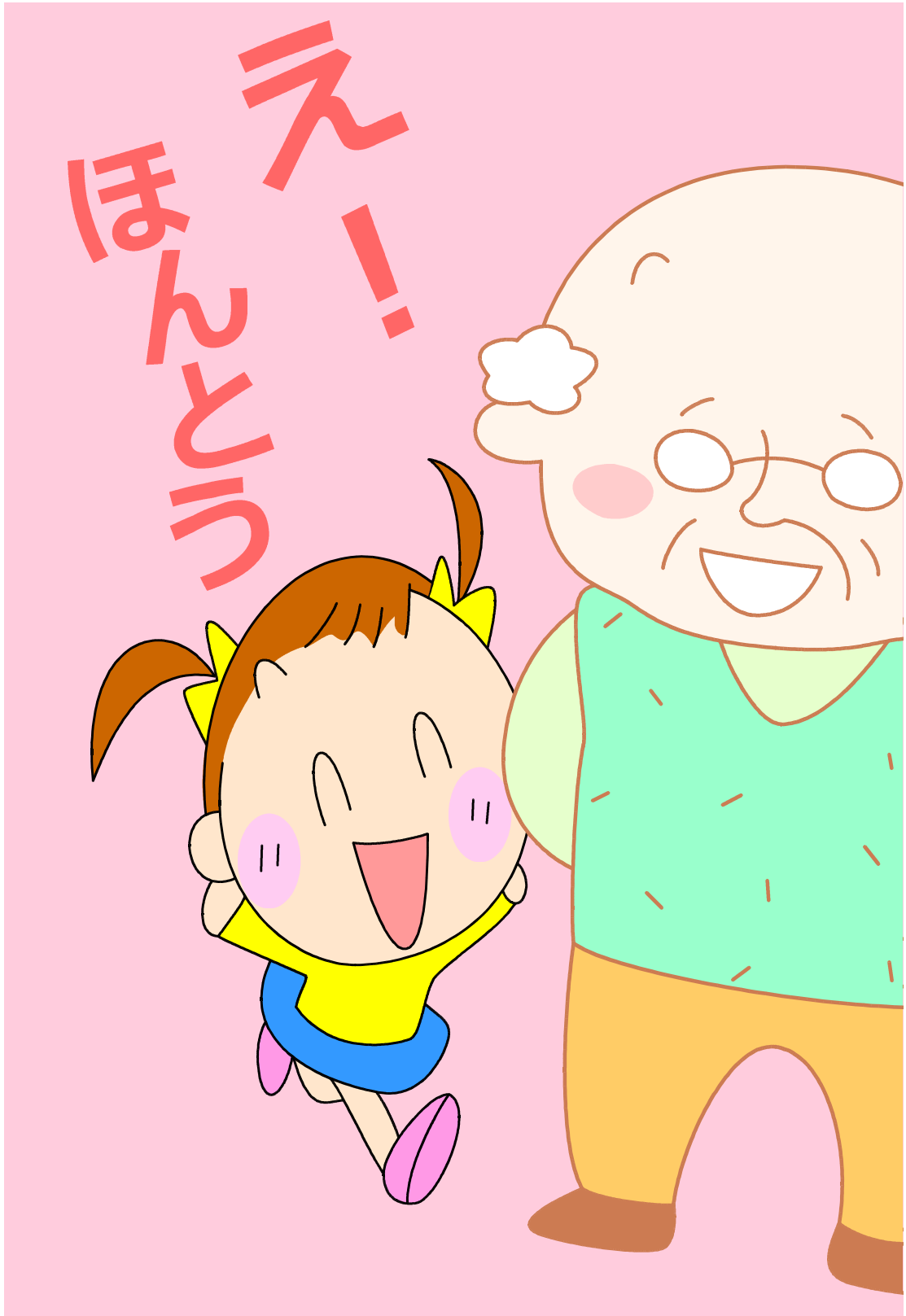


「おじいちゃんに きいてみよう」

なっちゃん、ものをよくしっているおじいちゃんに きいてみた。

すると

「ん～、たしかに れきしのあるいえなんだ。ふるさとまつりのてんじぶつにも さいとうけのしりょうがあったな?! くわしいことは、あきおさんにきいてみるか。いっしょにいつてあげるよ」





あれあれ、これはおもしろそうと、なぜなぜくんが、もりからあそびにきたよ。どこかな？



わたしは、なぜなぜでーす。

さっそく、あきおさんのい
えに 行って、きいてみた。
すると、

「いいことにきがついたね。
さいとうけはね。むかし、こ
のちいきをおさめていたせき
やどはんのなぬし(このちくのまとめや
く)をつとめていたんだ。だから、
いろんなしりょうがのこ
されているんだよ」

なぜなぜくん、どこどこ？

たとえば・・・

かみしも

しゃしんの

かみしも

袴は

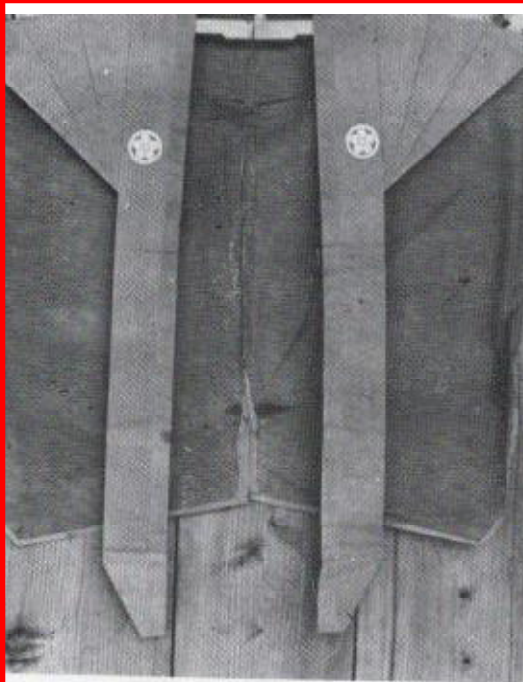
さいとうけぞう
斉藤家蔵

(さいとうけにあった)

のものだ。



おとなのひとが
よんでね



斉藤家蔵の袴

江戸時代の民間の袴（肩衣）・半袴は
大礼服であった。当時、**苗字帯刀**を許さ
れた家には、藤田家のように現在も保存
されている例がある。関宿藩領小坂村、
（大字小坂）斉藤家にも、この種の袴数
点が大切に保存されている。



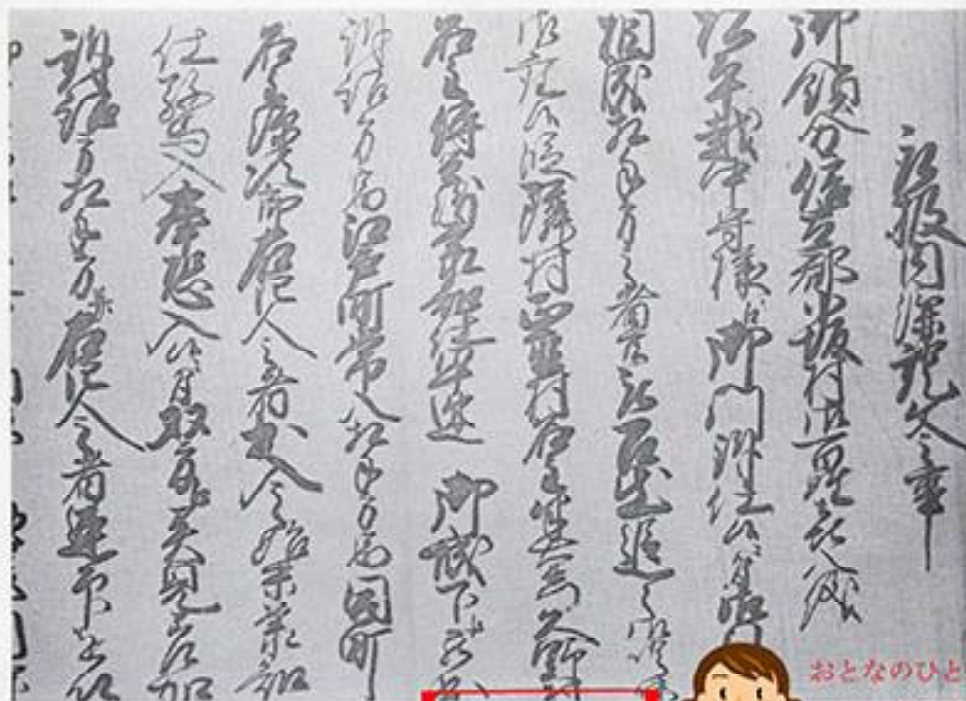
なっちゃんか
よんで！



かたなをもつことやみょう
じをなをることをゆるされて
いたんだ。びっくり！

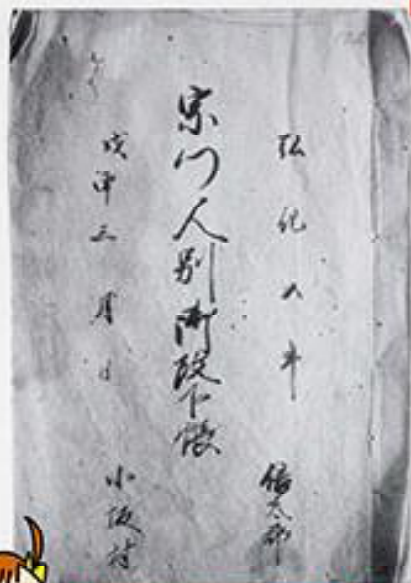


さらに、こんな^{こもんじょ}古文書も・・・



おとなのひとが
よんでね

村方騒動関係史料の一部



弘化5年「宗門人別改帳」の表紙

古文書 斎藤家文書（大字小坂・斎藤家蔵）
さいとうけもんじょ
斎藤家は江戸中期以降小坂村（関宿藩領）名主役・勤
めた家である。このため同家には、明和期（一七六四―
一七七二）以降の小坂村関係近世文書が保存されている。
貢租・土地・戸口・訴訟・村政・助郷等多種にわたる
が、注目されるのは、安永元年（一七七二）から二十年
間に及んだ村方騒動関係史料及び明和四年（一七六七）
以降安政年間（一八五四―一八五九）までの「物成割付
状」等であろう。また、明治五年から明治八年までの新
治県時代の布達摺物等も数少ない史料である。

91



さいとうけは、なぬしだったから いろん
なふるいもんじょがあるんだよ。

せきやどはんは、信太郡村々田畑荒地年
き とりしらべがかり
 季取調掛で

お お じよう や 大庄屋 とり しまり 取 締 お き か ゐ ら な め し 小坂村名主 い ぬ ず か ゐ ら な め し 犬塚村名主	もと ば し ひよう ご 本橋兵庫 もと は し わ き ぶ ろ う 本橋和三郎 さい とう ち ゆう ざ え も ん 斎藤忠左衛門 い し か わ ひ じ ゅ う う え も ん 石川兵右衛門
---	--

を にんめいし、ねんぐのせわとうをさせ
 たんだよ。したのしりょうもそのひとつだ。



慶長7年 小坂村御縄打水帳写
 (斎藤忠之家蔵 本文史料 10-11)



おとなのひとが
 よんでね

けん ち ちよう
 検 地 帳



このなかに^{お さ か む ら な め し}小坂村名主
^{さい と う ち ゅ う ざ え も ん}斎藤忠左衛門がとうじょう。
さいとうけのせんぞだ。

おさかちくは、むかしおさ
かむらといって1602ねん
の^{けん ち ち ょ う}けんちちよう^(検地帳)「^{ひ た ち}常陸
^{のくに し だ の し ょ う お さ か む ら お な わ う ち み ず ち ょ う}国信太庄小坂村御縄打水帳」

^{さい と う も ん じ ょ}(斎藤文書)にでてくるので、せ
んごくじだい(戦国時代)からあ
ったむらなんだ。

えどじだいの^{げ ん ろ く ご う}げんろくごう
^{ち ょ う}ちよう^(元禄郷帳)では、こくだ
か^(石高)やく515こく(1こくは、
おとながひとりが、いちねんかんにたべるこめのりよ
う)とあった。

このしりょうもそうだ。



二 山野と水をめぐる生活

御役人中様

(牛久市小坂・斎藤忠之家文書一六〇イ 状)

(5)文化五年十一月 小野川通り川除堤押切につき小坂村・泉村双方の飛地普請議定証文

為取替申一札之事

一 信太・河内両郡境悪水落字小野川通り川除堤、当五月中々度々雨降り続満水ニ罷成、川除堤押切レ申候場所数ヶ所出来申候故、当田方致水腐難儀仕候、右堤之儀者連茂自普請ニ行届不申、無拠当九月中 御領主様江御願申上置候処、猶又泉村役人惣代名主惣右衛門・組頭惣兵衛、岡田清助様御役所様江願出、御添簡を以久世大和守様御役人様江奉願上候儀者、小坂村々泉村江之飛地川除堤普請小坂村江被 仰付候様奉願上候ニ付、小坂村役人中御召出之上、右村役人惣代之者共江相懸合候者、泉村々小坂村江之飛地川除堤有之候ニ付、双方相談を以一先帰村相頼、国元江罷帰り居候処、御領分村々川除堤願之儀ニ付、御出役様方御下り被遊候



おとなのひとが
よんでね

文化五辰年十一月

常州信太郡小坂村

名主

忠左衛門 印

組頭

藤兵衛 印

百姓代

利兵衛 印

(牛久市小坂・斎藤忠之家文書T-II-193 状)

なぬし
ちゅうざえもん

而、川手前飛地両様共御見分之上切所欠所之処杭葉口等御目論見被成下、御請請被 仰付、難有仕合奉存候、右泉村々小坂村江之飛地川除堤之内切所欠所之分、泉村々杭葉口を以普請相仕立可申筈、双方飛地之儀者両村共来春互ニ普請仕、其上年々相繕、大破ニ不相成様仕候筈、両村共小前一同納得之上儀定仕候、処仍而如件



めいじじだいのようにすが、
わかる こんなしりょうも・
・・○

だ じょう かん ふ こく せい さつ
太政官布告制札だ。



だ じょう かん ふ こく せい さつ めい じ せい
太政官布告制札は、明治政
ふ だ じょう かん めい な ぬ し た く ま え
府の太政官の命を名主宅前の
こう さい ば そん みる
高礼場にかかけ、村民にしら
せるためのものだったそう
だ)

めいじじだいの^{だ じょう か ん ふ こ く せ い き つ}太政官布告制札



おとなのひとが
よんでね

太政官布告制札(一)

考古資料 太政官布告制札(一)

(大字小坂・斎藤整之氏蔵)

制札(一)(写真下)は制札(一)と同形で、縦三・八センチ、横七三センチの大きさ。文面は江戸時代から
らの百姓一揆禁制である。

定

何事によらずよろしからざる事に大勢申合候こと
ととうとなへ、ととうしてねがひ事金だつるを
ごうそといひ、あるひは申合せ居町居村をたちの
き候をてうさんと申す、堅く御法度たり、若し右
類の儀これあらば早々其筋の役所へ申出づべし、
御ほうび下さるべき事

慶應四年三月

太 政 官

考古資料 太政官布告制札(三)

(大字小坂・斎藤整之氏蔵)

制札(三)(写真上)も縦三〇センチ、横六八センチ
の両肩落し五角形である。文面は、江戸時代のキ



太政官布告制札(三)



おとなのひとが
よんでね

太政官布告制札四

リシタン禁制がそのまま継承されている。

定

一切支丹宗門之儀は是迄御制禁之通堅く可
相守一候事

一 邪宗門之儀は堅く禁止之事

慶應四年三月 太 政 官

考古資料 太政官布告制札四

(大字小坂・斎藤整之氏蔵)

制札四(写真上)も制札(口)と同形である。文面
は次の通りである。

今般 王政御一新に付朝廷の御條理を追い外國

交際之儀被ニ仰出ニ諸事於ニ 朝廷ニ御取扱被ニ爲ニ成萬國之公法を以て條約御履行被ニ

爲ニ在候に付而者全國之人民 獻旨を奉戴し心得違無ニ之様被ニ仰付ニ候自今以後續り

に外國人を殺害し或は不心得之所業等致候ものは 朝命に忤り御國難を醸成し候而已な

らず一旦御交際被ニ仰出ニ候各國に對し皇國之御威信も不ニ相立ニ次第其以不届至極之

儀に付其罪之輕重に隨ひ士列之者と雖刑ニ士籍ニ至當之典刑に被ニ處候銘々奉ニ朝命ニ

續りに暴行之所業無ニ之様被ニ仰出ニ候事 三月 太 政 官



百姓一揆禁制太政官布告制札・山越喜一氏蔵



でも、ふしぎだ。

この^{だ じょう かん ふ こく せい さつ}太政官布告制札を の
うみんなが、よんだのかな？

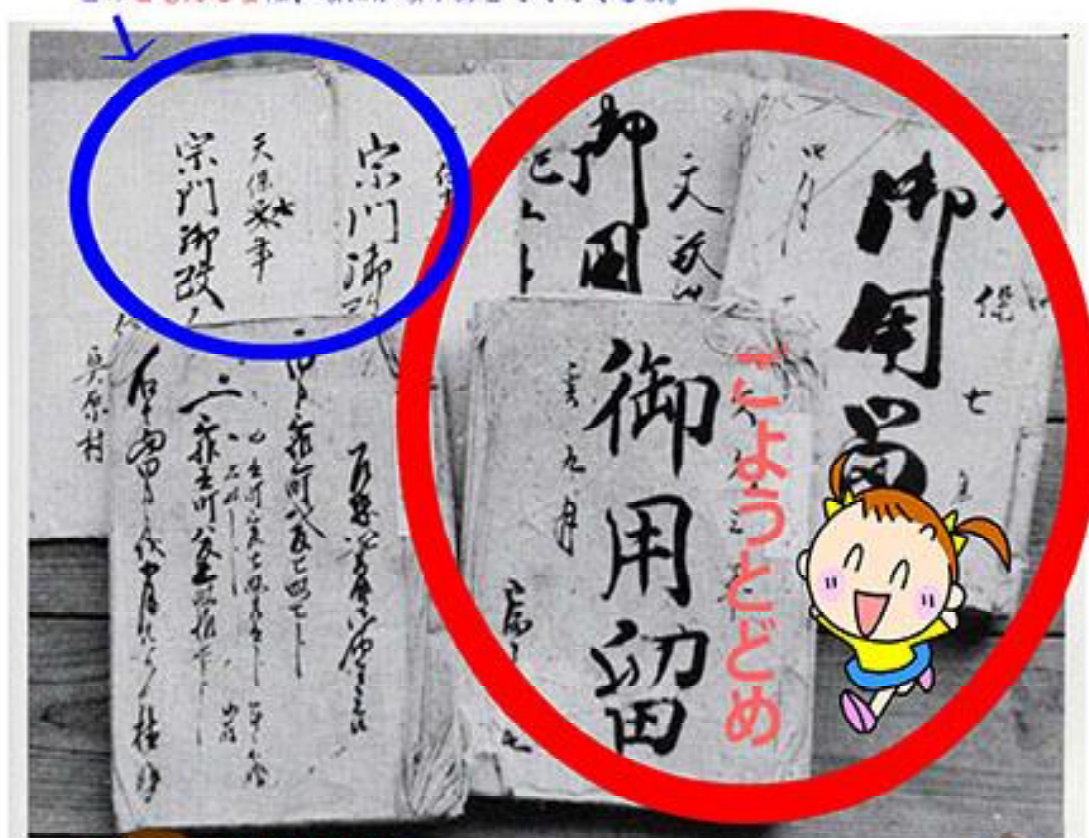
よまないものをかかげるは
ずはない。ということは、よ
めたんだ。



みなさんは、よめるかな？
かなりむずかしいよ！

のうみんなは、どこで まな
んだのかな？ そういえば、さ
いとうけとおなじょうになぬし
をつとめたいえには、こんなし
りょうものこされているんだ。

このこもんじよは、なにかな？あとででてくるよ。



明治11年「字給調査録」
の内容の一部・奥原文書

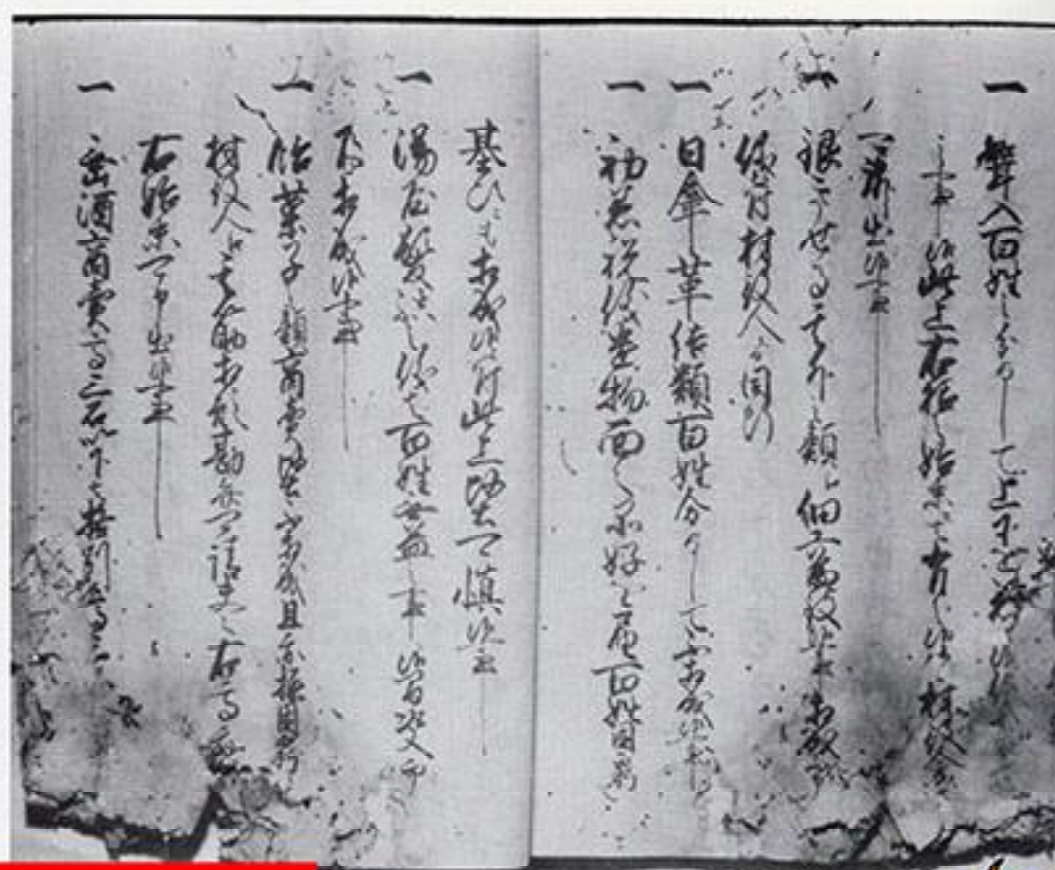
奥原文書の一部

戸口・租税・寺社・生活・政治・産業・教育関係等、多岐にわたるが、江戸時代のもものは数少ない。そのうちでも特に注目されるのは、**文政以降の「御用留」**及び天保以降の「宗門改帳」や、多数の「實地証文」類であろう。明治期以降では、戸口・教育・産業・輸送等に関するものが注意をひく。

古文書 奥原文書

おくばらもんじよ

大字奥原・坂本家蔵



「常州河内郡信太郡宛寄式格式・村組合議定連印帳」の内



古文書

もとはしけんじょ
本橋家文書

(大字久野大和田)

本橋家に残る近世・近代文書は、現在茨城県歴史館に委託されているが、合計一七点である。その内容は、「御用留」や「御触留」、「宗門人別改帳」や石高及び貢租関係の帳簿が多い。

「御用留」及び「御触留」は幕末のものが一九点、明治初年のものが一四点で、その割合は高い。本橋家が名士を勤めた人和田村は、近世期関宿藩領に属していたから、これらの史料によって関宿藩領の動向の一端をうかがうことはできよう。この意味で、本橋家文書の十では注目したい史料の一つである。

「宗門人別改帳」であるが、幕末のもののみ六点である。記載については、奥原文書や齊藤家文書と同じ形式である。

そのほか、文政十

年(一八二七)に設定を触出された「改

革組合村」制関係史料も注目されている。



弘化4年「御用留」表紙



おとなのひとが
よんでね

ご よ う と ど め
御用留なんて、



よめないよ！



すごいなー

しかも、なぬしさんは、
かけたんだ！

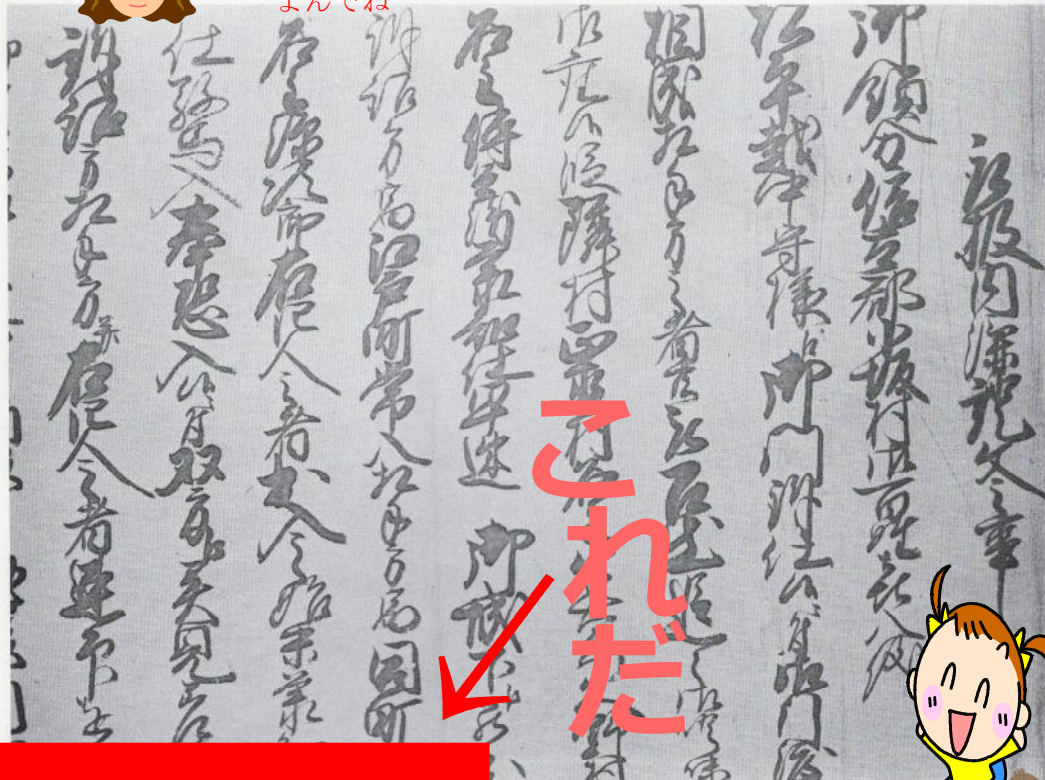
びっくり！

ところで、しゅうもん にんべつあらためちよう
宗門人別改帳つ
てなに？

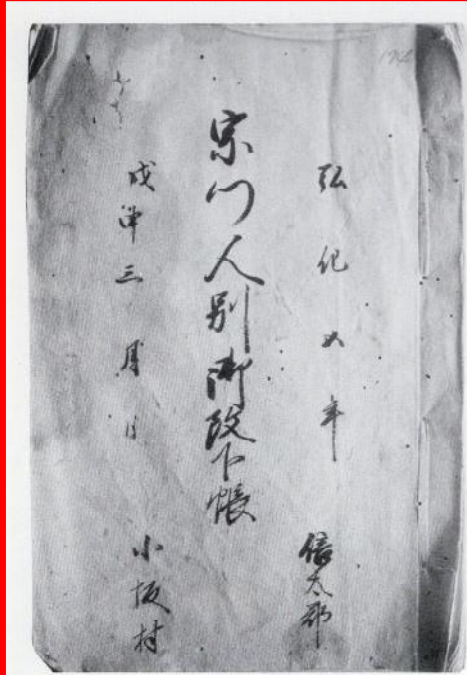


おとなのひとが

よんでね



これだ



弘化5年「宗門人別改帳」の表紙

村方騒動関係史料の一部

古文書 斎藤家文書

(大字小坂・斎藤家蔵)

斎藤家は江戸中期以降小坂村（関宿藩領）名主役を勤めた家である。このため同家には、明和期（一七六四―一七七二）以降の小坂村関係近世文書が保存されている。貢租・土地・戸口・訴訟・村政・助郷等多種にわたるが、注目されるのは、安永元年（一七七二）から二十一年間に及んだ村方騒動関係史料及び明和四年（一七六七）以降安政年間（一八五四―一八五九）までの「物成割付状」等であろう。また、明治五年から明治八年までの新治県時代の布達摺物等も数少い史料である。

(61)



おくばらもんじよ

あ、まえの奥原文書にもあった！

この^{しゅうもん にん べつ あらためちよう}宗門人別改帳はね。えどじだいの「こせきだいちょう」みたいなものなんだよ。

だれのいえに かぞくが なんにんいて、ねんれいや だれとけっこんしたかなどが、ていねいにかかれているんだ。

だから、じぶんのせんぞをしらべめることもできるんだよ。

でもね、^{あらためちよう}改帳のほんとうのもくてきは、べつにあったんだよ。


わかるかな？ 

えん!



わかったって

すごい!



そうなんだよ。しまばらの
らのあと、キリストきょう
をとりしめるためにつくった
んだよ。

では、はなしをさいとうけ
にもどそうね。まずおさかむ
らとさいとうけをしらべてみ
ようね。

おさかそん さいとう け 小坂村と斎藤家

おさかむら つぼ
小坂村には6つの坪があって、そ
れぞれの坪単位に組をつくってい
た。(だいぐちつぼ にしつぼ わだつぼ しんでんつぼ
あらじつぼ しもつぼ さいとう け
荒地坪、下坪だ) 斎藤家は、いまは
だいぐちつぼ
台口坪にはいっているが、げんみつ
には、どの坪にもはいらず、「堀之内」
とよばれていたんだ。



斎藤家遠景
さいとうけえんけい

なお、このようにどの坪^{つぼ}にもはい
らず、屋号^{やごう}いがいでよばれていた^い
^えは、小坂^{おさか}ではこの斎藤家^{さいとうけ}一軒^{いちけん}だけ
らしい。

斎藤家^{さいとうけ}の屋号^{やごう}は、代々^{だいたい}「忠左衛門^{ちゅうさえもん}」
を^{むらびと}なのっていたが、村人^{むらびと}からこの屋
号^{ごう}で呼^よばれることはなかったらし
い。

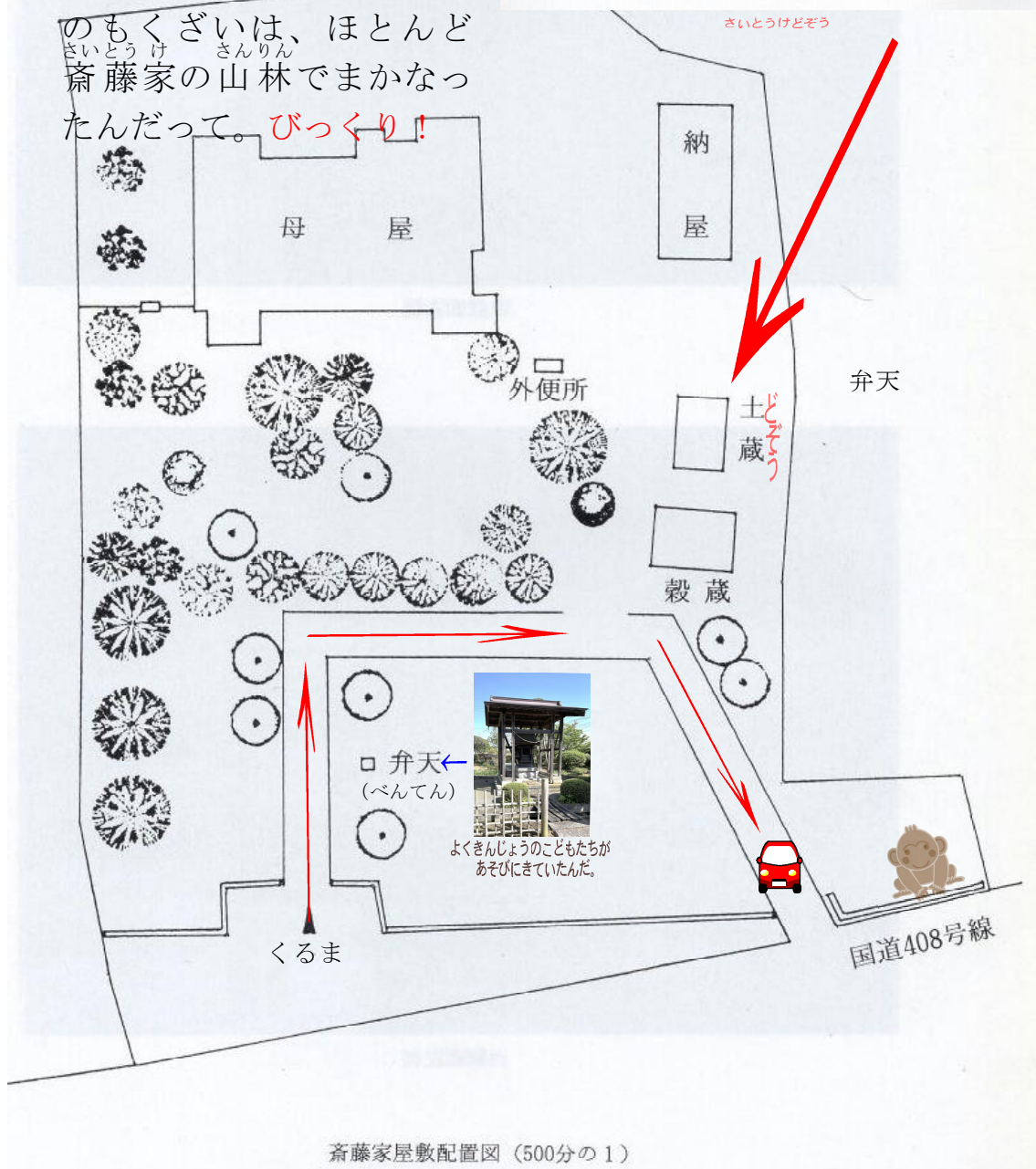
つぎのページは、

やしきはいちずだ。

1868ねんに^{おさかむら}小坂村で
^{おおかじ}大火事があって^{おもや}母屋は、
 もえてしまった。穀蔵と
^{くら}蔵がのこり、このなかに
 あったものをいまの^{どぞう}土蔵
 にうつした。いまの母屋
 は、**めいじ3ねん**にたて
 られた。なお、このとき
 のもくざいは、ほとんど
^{さいとうけ}斎藤家の^{さんりん}山林でまかなっ
 たんだって。**びっくり!**



斎藤家土蔵



お さ か さ い と う け い ち け ん
小坂には、斎藤家は一軒しかない。
あ つ と う て き た す う み よ う じ さ い だ
圧倒的多数をしめる名字は「斉田」。

このことから斎藤家ももとは斉田
をなのっていて、あらたな領主から
さ い と う み よ う じ は い り よ う
斎藤の名字を拝領したといういいつ
たえもあるそうだ。

びっくり!

また、^{さいとう け じゅうたく}斎藤家住宅には、びっくりするひ
みつがあるんだ。なんだとおもう？

・・・。

それがね2つあって、ひとつは、^{おくざしき}奥座敷
^{どこま}の床の間は、^{ひじょうじ}非常時ににげられるようにな
っていること。

びっくり!

もうひとつは、^{しんにゆうしや}侵入者^おのかくればしよに
ならないように、押し入れ^{いり}が、ほとんどな
いことだなんだって。

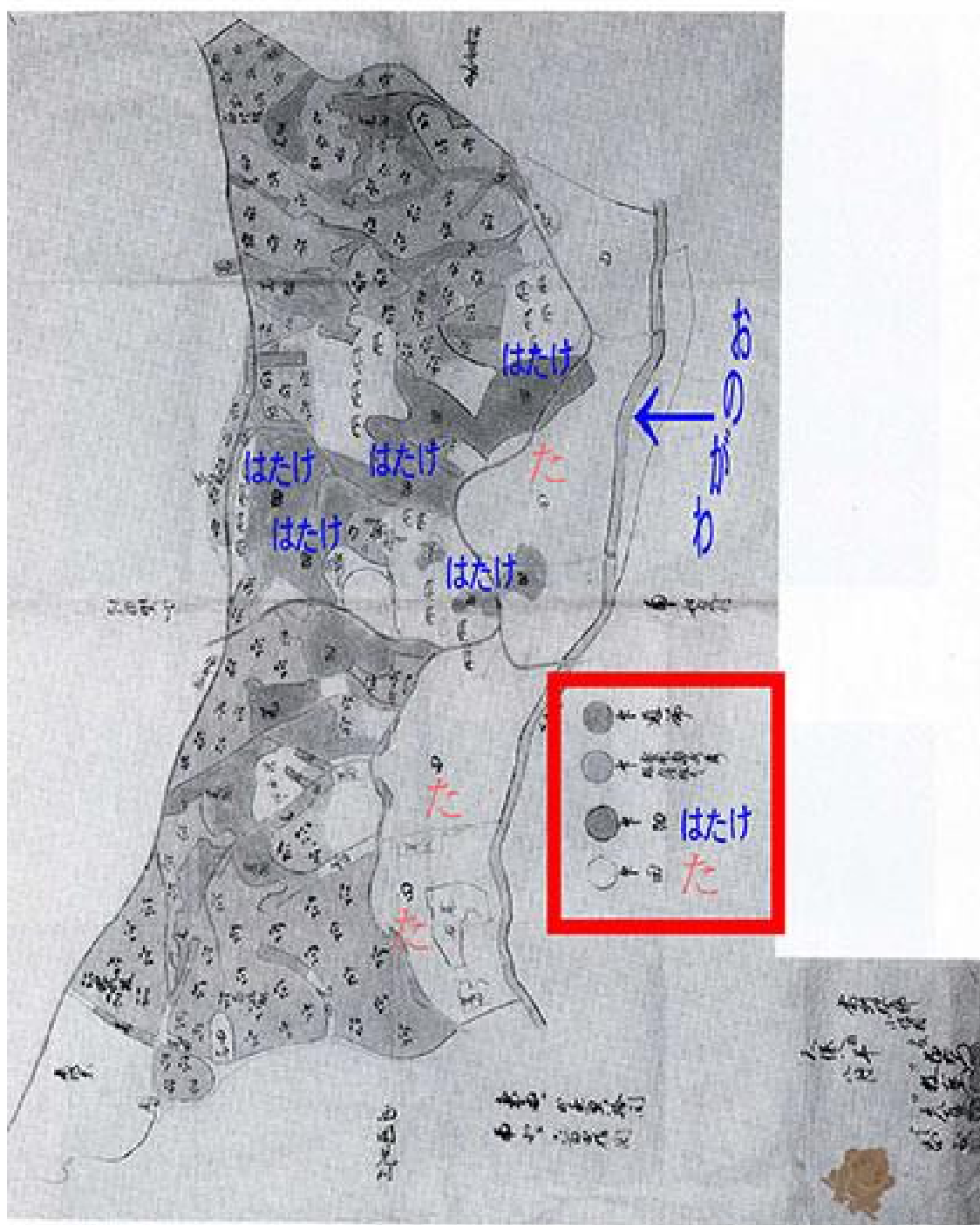
びっくり!



ここで、ちょっと、えどじだいのおさか
ちょうのはなしをしようね。てんぽ8ねん
(1837ねん8がつ)にえがかれたとちりようずだ。

たやはたけなどのぼしよがわかるよ。

びっくり!



小坂村絵図（天保8年8月）

たやはたけなどのばしょがわかるよ。

びっくり！

でも、**おのがわ**ぞいの**た**は、ふ か た深田
(どろぶかい**た**) で、あまりよく
ないとちだったんだって。

のうかは、たいへん

びっくり!

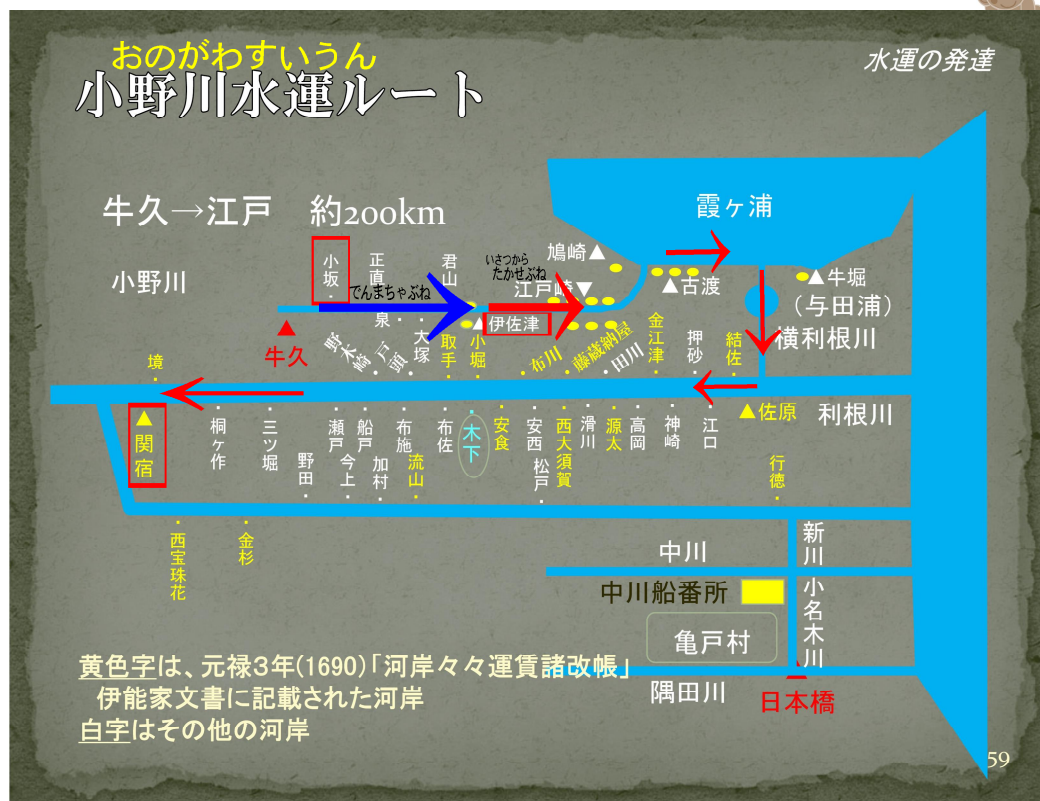
そうだったのか。

せんごくじだいは、**おかみ**しが、
お さ か じょう小坂城をきづいて、しはいしてい
たが、1680ねんからは、せ き や ど**関宿**
は ん りょう**藩領**となったんだ。

そうか！だから**だいかん**しょ
が、**<の**にあったんだ。

せきやどはんしだぐんりようち おさかむら
 関宿藩信太郡領地は、小坂村を
 ふくめて14かそん。そのうち奥
 のちく おさか しょうじき しまだ おく
 野地区は、小坂・正直・島田・奥
 ばら い おか かつら くの
 原・井ノ岡・桂・久野の7かそ
 ん。

おさかむら げんかん
 小坂村は、おのがわぞいの玄関
 ぐち 口。7かそんのねんぐをはこぶ津
 だし役（小坂河岸からふねで、
 つみだす）をつとめたんだ。



でも、あさくて せまい **おのがわ** を
 どんな **ふね**
 で、はこんだ
 の？

ふねをくふうしたんだ。
 こうして、やっと
 できたのが・・・。



「伝馬造茶船

(でんまつくりちやぶね)」だ。

このふねに のせてはこぶ
 と、ひとやうまで、はこぶよ
 り、はるかに たくさんのこ
 めをはこぶことができたん
 だ。

びっくり！

でんまつくりちやぶね

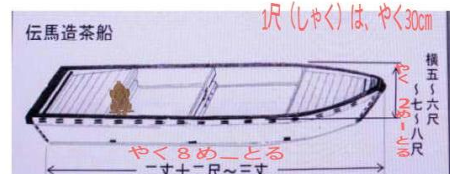


※ したのひょうは、はこぶちからくらべだ。

はこぶちからくらべ

江戸時代の輸送力

江戸時代の輸送力	
たかせぶね	200～1200ひょう
利根川高瀬船	200～1200俵
軽下船	240～480俵
伝馬造茶船・小鴨飼船	25俵 25ひょう
馬 うま	2俵 (1駄) 2ひょう
人 ひと	1俵 1ひょう



そうか！

びっくり！

こうして、さいとうさん
のおうちをしらべていく
うちに、おくのちくのむ
かしも、すこしずつわか
ってきたぞ。

あ〜

たのしかった！

やっぱり **さいとうさんのお**
うちと**のこ**されたしりょう
は、**おくのちく**のたからもの
なんだね。

さて、こんどは、なにをし
らべようかな？

あれあれ？「すごーく、たのしかった」と なぜな
ぜくん。つぎのひみつをもとめてスキップしながらか
えっていった。

またね 

参考文献 牛久小坂・斎藤家文献概要調査報告書
牛久町史資料編 1
遺跡から見る牛久の歴史
小野川水運 坂 弘毅